

ガーベラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	オンシツコナジラミ	マメハモグリバエ	ハダニ類	ネコブセンチュウ
エンセダン乳	1B		-	6	ミ						
カルホス乳	1B	劇	*a	4				若	◎		
ネマトリンエース粒	1B		*b	1							◎
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*c	1		◎	◎	○	◎		
			*d	5		◎					
アグリメック	6	劇	*a	5	◎				ト	◎	
パダンSG溶	14	劇	*a	4	ミ						
			-						◎		
カスケード乳	15		*a	3	ミ				◎		
アブロード水	16		*a	6				幼			
アブロードエースFL	16・21A		*a	6			◎	○			

*a:発生初期

*b:植付前

*c:定植時

*d:生育期

*f:発病前～発病初期

ト:トマトハモグリバエ

ミ:ミカンキイロアザミウマ

幼:幼虫

若:若齢幼虫

ガーベラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	定植前	1. 低湿地、排水不良な場所には栽培しない。 2. 発病地での連作をさける。 3. 発病地から株分け苗を採取しない。	根腐病も疫病菌の一種による。
	生育期	・発病株を早めに抜きとり、処分する。	
えそ輪紋病	生育期	1. 罹病株は更新する。 2. アザミウマ類を防除する。	T SWVによる。 苗感染に注意する。 問題になっている病害虫の生態と防除の項参照。
うどんこ病		・発生を見たら次の薬剤いずれかを散布する。 バンチョT F 顆粒水和剤●＊ 2000倍 ポリオキシンAL水溶剤＊ 2500倍 モレスタン水和剤△＊ 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △モレスタンは薬害を生じるおそれがあるので注意する。 ＊花き類・観葉植物での登録
灰色かび病		・発生を見たら次の薬剤いずれかを散布する。 ゲッター水和剤㊟●＊ 1000倍 フルビカフロアブル＊ 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 ＊花き類・観葉植物での登録
菌核病		・発生を見たら次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤㊟●＊1500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 ＊花き類・観葉植物での登録
モザイク病・ウイルス病	生育期	1. 罹病株は更新する。 2. アブラムシ類を防除する。	
アブラムシ類		・発生を見たら次の薬剤いずれかを散布する。 アドマイヤーフロアブル＊ 2000倍 オルトラン水和剤＊ 1000～1500倍 ロディー乳剤＊ 1000倍	＊花き類・観葉植物での登録

ガーベラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ミカンキイロアザミウマ	生育期	- 次の薬剤のいずれかを散布する。 - オルトラン水和剤＊ 1000～1500倍 - オルトラン粒剤(株元散布)＊ 3～6kg/10a - パダンSG水溶剤 1500倍 - モスピラン顆粒水溶剤＊ 2000倍	＊花き類・観葉植物でアザミウマ類での登録
コナジラミ類	生育期	- 次の薬剤のいずれかを散布する。 - アブロードエースフロアブル 1000倍 - アルバリン顆粒水溶剤＊ 2000～3000倍 - スタークル顆粒水溶剤＊ 2000～3000倍 - ベストガード水溶剤＊ 1000倍	＊花き類・観葉植物での登録
マメハモグリバエ		- 次の薬剤のいずれかを散布する。 - カルホス乳剤 1000倍 - トリガード液剤＊ 1000倍 - パダンSG水溶剤 1500倍	＊花き類・観葉植物での登録
ヨトウムシ類		- 次の薬剤のいずれかを散布する。 - アフアーム乳剤＊ 1000倍 - ノーモルト乳剤＊ 2000倍	＊花き類・観葉植物での登録
その他の病害虫		斑点病、半身萎凋病、紫斑病、ネコブセンチュウ	